

高温耐性およびイネ縞葉枯病抵抗性を有する 水稲良食味品種「にじのきらめき」の特性

農業総合センター農業研究所

近年は温暖化に伴う水稲登熟期間の高温によって、「コシヒカリ」を初めとする県内主要品種に白未熟粒が多発し、玄米品質低下の要因となっています。また、県西地域を中心に、イネ縞葉枯病の発生が問題となっており、病気の拡大を防ぐ対策として抵抗性品種の導入が求められています。

これら課題を解決する品種の一つとして、高温耐性およびイネ縞葉枯病抵抗性を有する中生水稲良食味品種「にじのきらめき」が有望であることから、県内各地における栽培特性等を明らかにし令和3年度茨城県の準奨励品種として採用しました。

「にじのきらめき」は倒れにくく多収

「にじのきらめき」は、農研機構中日本農業研究センター北陸研究拠点で育成された品種です。

「コシヒカリ」と比べた栽培性の特徴は以下の通りです。

- ・ 稈長が約20cm短く、倒れにくい品種です。
- ・ 出穂期は、同じか1日遅く、成熟期は、3～6日程度遅いです。
- ・ 収量（精玄米重）は、102～125%（614～697kg/10a）で多収です。



「にじのきらめき」 「コシヒカリ」

写真1 圃場での草姿（R2水戸市、多肥栽培）



「にじのきらめき」 「コシヒカリ」

写真2 玄米の外観

大粒で玄米品質に優れる

「にじのきらめき」を「コシヒカリ」と比べた品質や食味の特徴は以下の通りです。

- ・ 玄米千粒重は2.4～2.9g重く大粒です。
- ・ 白未熟粒の発生が少なく、玄米品質は優れ、農産物検査等級はいずれの年次・試験地においても1等と判定されました。
- ・ 食味評価は同等です。

イネ縞葉枯病発生地域に普及推進

令和3年度の「にじのきらめき」作付面積は県西地域を中心に約490haです。「にじのきらめき」の高品質安定多収栽培方法の確立を目指し、令和3年度より3年間の計画で栽培試験を開始しています。

今後、イネ縞葉枯病の発生が多い県西・県南地域を中心に作付を推進します。



写真3 登熟期の「にじのきらめき」